

「戀さん、おはよう、久しぶり」

「あ、依藤先輩、おはようございます。お久しぶりです。今回はどこに行ってたんですー？」

「ロンドンの方でちょっとね。やっと日本に帰ってこれたよ。日本も、もう冬だねえ……」

「そーですねっ！最近制服のスカートが寒くて寒くて……」

「スカート折るの辞めたらいいじゃない……？」

「やーっです！ナオ君先輩と一緒にいるのに、そんな野暮ったい恰好してられません！」

「…野暮ったいかなあ？…まあいいや、ほら、これ、お土産」

「なんですか！なんですか！わーっ！」

「戀さんの反応みてるって買った甲斐があったよ」

「ありがとうございます！わーい！」

「おうち帰ってから開けなさいね、学校だとまたいろいろ言われるよ？」

「かっまいませーん！でも、放課後生徒会室であけることにしまーす！」

「ふふ、それまで預かっておこうか？今日授業出ずに生徒会室で執務するから、一日居るよ？」

「わーい、おねがいしまーす！」

「お疲れ様です。授業終わりましたよー」

「おー、お疲れ、戀さん紅茶入れるから座ってて」

「はーい！その紅茶も、ですかー？」

「そうだよ。ロンドンで買ってきたんだ。おいしいと思うんだよなー」

「わっくわくですねー！」

「そうだね、ほら、預かってた方のお土産」

「あ、そーだった！あけよー！」

「向こうでお土産探してる時かわいいのあったから、似合うかって買ったけど、どうかな？」

「あ、かわいいマフラーだ！制服にも私服にもあわせれそー！わーい、ありがとうございまーす！」

「似合いますかー？」

「戀さんかわいい、似合ってるよ」